

Copilotその2

JJ1SXA/池

前の記事「Copilot (コパイロット)」の続きです、前記事で書き足らなかった諸々を書き足すものです。(勉強し、実際に実行して試してみました)

ブラウザEdgeで開いたウェブページで、「このページを要約して」などと頼むと、ウェブページに記載された内容を説明してくれる。

通常の質問時と同様、下線の引かれた部分はリンクになっていて、クリックするとウェブページの該当箇所に移動、その部分が強調表示されるので、詳細な情報の確認に便利だ。

ウェブページの一部だけを選択して説明してもらうことも可能、テキストをドラッグして選択すると、テキストをチャットに送信しますか?と尋ねられるので「送信」をクリック、すると選択したテキストがチャットに投稿され、更に、「説明する」「修正する」「要約する」などの選択肢が現れる。

「説明する」をクリックすれば、その内容についてより詳しく解説してくれる、「修正する」を選ぶと表現の誤りを指摘したり、別の表現に書き換えてくれたりするので、ウェブ上で書いているメールやブログなどの文章をCopilotにチェックしてもらおうといった使い方もできる。

Copilotが読み取れるのは、ウェブページだけでは無い、Edgeで開いているPDFファイルの内容についても、要約や説明が可能、ウェブページと同様、下線のリンクをクリックすると、該当箇所に移動できる。

パソコン内にあるPDFファイルも、Edgeで開くことで、Copilotに読み取らせることが可能、他にも、Edgeで開ける、ファイルであれば、テキスト形式のファイルなどもCopilotの対象にできる。

Windowsの標準機能としてOSと深く結びついたCopilotには、ほかのAIサービスと一線を画す大きな特徴がある、それは、パソコンを操作できる点だ。

例えば、「メモ帳を起動して」と頼むと、「メモ帳アプリを開きますか?」と確認のメッセージを表示する、「はい」を選ぶと実際にメモ帳を起動してくれる。

アプリや設定の名前がわからなくても、「余計な通知を止めたい」などと、やりたいことを入力すれば、対応するアプリや設定を提案してくれる、「はい」を選ぶだけで、実際の設定まで行われる場合もある。「仕事に集中できる音楽をかけて」といった漠然とした要望にも対応している、実際に「Spotify…音楽配信サービス」のアプリを提案すると同時に、該当する「YouTube番組」を提示してくれたりする。

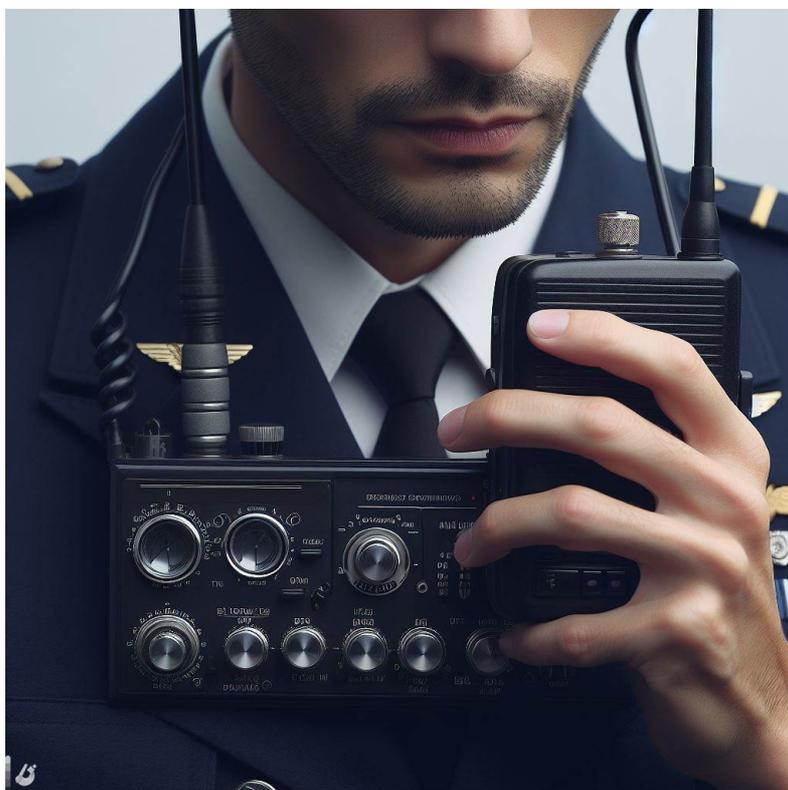
音楽を再生したのに音がでない時、「音がでないのは何故?」と聞くと、「トラブルシューティングツール」の利用を促される、「はい」を選べば、実際にツールが起動して、オーディオデバイスの問題をチェックして解決できる、ネットなどで自分で調べなくてもCopilotが必要な機能や設定を呼び出してくれる。

Copilotが扱えるのは、テキストだけでは無く画像も扱えるのだ、例えば「犬の写真を見せて」と頼むと、犬の説明と共にその写真を表示し、加えてウェブページ上にある犬の写真をサムネイルで一覧表示、クリックすればそのページを開ける。

手持ちの、例えば「花」の画像を読み込ませて、「この花の名前は？」などと質問することも可能、Copilotに分析させた上で質問できるのだ。

「猫の写真を生成して」などとお願ひすることで、オリジナルの画像を生成できる、Copilotでは、「Bing Image Creator (ビングイメーヅクリエイター)」というAIによる画像生成サービスを直接利用できるのだ

どのような場面の何を描くのか、写真なのかイラストなのかなど具体的に説明して依頼し、イメージ通りにならなかつたら、追加で要望を伝えれば良い、サムネイルをクリックするとBing Image Creatorのページが開きファイルをダウンロードできる。



「無線で交信中の男性の写真を生成して」と頼んだら、こんな写真ができた、満足では無いが、取り敢えず良しとした。

まだまだ使いこなせていないが、知れば知るほど素晴らしい、メインの「Pilot・操縦士 (操作する私)」に比べるべくも無い、優秀な「Copilot・副操縦士」だ、もっともっと使わなければ勿体無い！
(2023年12月記)